

③ 「表現の手引」について

「表現の手引」は、本題材の彩色の段階で用いる材料・用具、技法について簡単に説明したものであり、事前に実践した「表現遊び」でも有効に活用することができた。この手引を活用しながら、彩色段階での基礎的な技法や材料・用具の扱い等を学ばせようとするものである。

④ 「ひらめきカード」について

児童一人一人の製作活動に表現意図と見通しを持たせるために、「ひらめきカード」を活用させた。

これには、児童の構想とアイデアスケッチを描かせ、絵を描くための要素と視点について理解させた。

下図は、児童F・Sのものである。「ひらめきカード」の観点が、アイデアスケッチや完成作品に一貫して生かされていた。

表現の手引

彩色するときの資料です。これらの特性を効果的に生かして色をぬりましょう。

材料と用具	材料：描いたり手を加えたり加工したりするもの（紙、絵の具） 用具：材料を加工したり、ぬったり、くっつけたりする道具	きり吹き	スプレー ふりかけ
水性と油性	絵の具・色鉛筆・フェルトペンなどには、水性と油性のものがある。水性は水でとかしたりうすめたりする。油性は水にとかないが、水性をぬったところでも、かわけばその上にかくことができる。	吹き流し	水彩絵の で流した
透明と不透明 絵の具	水彩絵の具には、透明と不透明のものがある。みんなは、ほとんど不透明を使っている。透明は、すきとおった感じで、ぬっても下の色や紙の白さ、そして、下に書いてある線などがすけて見える。	こすり出し	表面がさ から色ぬ
線で描く	線は形をかいたり、さかい目を決めたりするのに必要です。また、面をそめるのにも線を使います。線といってもいろいろな感じの線があり、いろいろな用具と方法で表現できます。	墨流し	大きめの ういても
色をつける	色のついた線をかいたり、面に色をつけたりするのにもいろいろな用具や材料と方法があります。色をつけた紙のりではあるような場合には、かわかす必要も出てきます。	そめる	和紙など ちぎった
ぬる	色をつけようとするところに、考えた色を直接ぬってゆく方法	色を消す	色をつ
混色	パレットや皿で色をまぜて思った色をつくらぬる方法	色をつけない	ちょっと 色をつけ
重色	色をぬった上にかさねて別の色をぬって、思った色を出す方法	色を洗う	色をぬっ 洗い落と
にじみ	画用紙を水でしめらしたり、ぬらしたりしてから色をつける方法	他のものを 切ってはる	別の紙を 切り絵の
ぼかし	ぬった色がかわかないうちに、色を別の筆でのぼしたり水をつけた筆などでぼし、ぼかす方法	色をひっかく	ぬった色 ぬったク
		描いてある 所にかく	色のぬっ 方法で、

※ もちろん、これらの絵にも同じ材料と用具で表現をしよう

☆ みんなで使う材料との所にもどしてお

ひらめきカード

題材	形や色の効果を生かして「物言の絵」をえがく	6年1組 番 氏名 F. S
----	-----------------------	----------------

- | | |
|--|---|
| <p>★物語を聞いて、心に強く残ったこと</p> <p>自分のことと時ついでときみのすけは...のころ。</p> | <p>★描いてみたいところ</p> <p>ダンゴを木につかしたところ。</p> |
| <p>★こんな感じに描いてみたい</p> <p>せんたいきにくさしかんい。</p> | <p>★こんな色あい描いてみたい</p> <p>くさしいあひ。</p> |
| <p>★材料や用具を、こんなふうに使って</p> | |

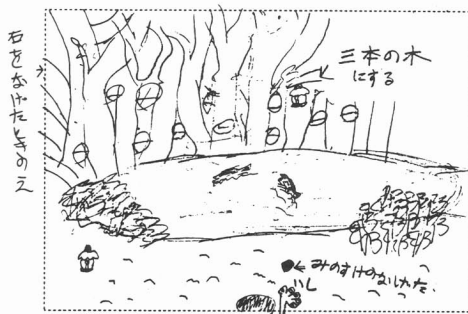
◎ 工夫すること

- ◇描きたいことがよく表れるように、大きさ、位置、構図を考える。
- ◇実行きや明るいところ、暗いところを考えて表現する。
- ◇考えていることがよく表れるように材料や用具を生かし、色のつけ方も工夫する。



私の名前は _____ です。図画工作料のマスクットです。
★印について、感じたこと、考えたことなどを書いて授業に生かしましょう。

アイデアスケッチ



F. Sは、「ひらめきカード」にアイデアスケッチを3枚描いた。構想は横画面だったが、作品は縦画面とした。(水彩、霧吹き併用)

